



## 取組みの主な進捗状況

### 生活のDX

#### 「ハピBASE」で若者の定住促進



県では、スマートフォンアプリ「ふくアプリ」を通じて、高校生や就職活動中の学生、子育て世代など若者とつながるサイト「ハピBASE」を開設しました。

グルメやレジャーなど福井での生活を楽しむための情報や就活情報、子育て支援策などを掲載し、県からのプッシュ通知も行います。若者に福井の魅力をアピールし、県内へのUターンや定住を促進していきます。

#### 未来技術活用プロジェクト6件を採択

民間事業者の先進的な技術やサービスを活用して地域課題を解決する「未来技術活用プロジェクト」にて、6件の事業を採択しました。

アプリを活用した外国人労働者の定着や、女性活躍促進による生産性向上などの実証を行い、3月に成果を報告します。



### 産業のDX

#### AIで観光分野の業務効率化を支援



県観光連盟や地域商社などをつくる県観光DXコンソーシアムは、AIを活用して県内観光事業者らの誘客を支援する実証事業を、11月末まで実施しています。

県を訪れた観光客のアンケート結果や宿泊予約状況などをAIが自動分析し、レポートを登録者にプッシュ通知で配信することで、データ分析の効率化や売上の向上が期待できます。

#### 外壁の老朽化をドローンで診断

赤外線カメラを搭載したドローンを使い、建物などの外壁改修の必要性を診断する実証実験が8月に鯖江高校で行われました。

従来の足場を組んで診断する方法は時間面や費用面で非効率であるため、ドローンを活用することで診断の効率化が期待できます。県内企業2社の実証実験に県が協力し、精度が確認できれば公共施設や橋の点検への活用を検討します。



### 行政のDX

#### 「めんどくさいワングランプリ」を開催



坂井市では、市職員が日ごろ「めんどくさい」と感じている業務を列挙し、改善策を話し合うワークショップ「めんどくさいワングランプリ」を9月に開催しました。

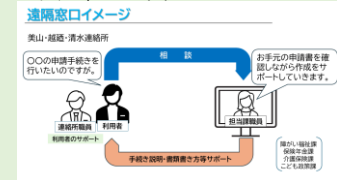
慣例で行っていた無駄な作業や、デジタル化で効率化できるものなどの意見が交わされ、業務改善に向けた検討を開始しています。

#### 遠隔窓口を試行運用

福井市では、オンラインで福祉関係の各種相談を受け付ける遠隔窓口の試行運用を8月中旬から開始しました。

市内の3連絡所から、福祉関係で専門的な知識を持つ本庁職員にオンラインで相談できます。市役所に行かなくても

相談できるようにすることで、高齢者や遠方にお住まいの方々の負担軽減を図ります。



## 最近の県内の動き

#### デジタル庁主催 マイナカード利活用勉強会開催

マイナンバーカードの利活用について検討するデジタル庁主催の勉強会が9月に福井市で開催されました。

デジタル庁の担当者からマイナンバーカードの機能や先進自治体での活用事例が紹介されたほか、ワークショップでは、各自治体が抱える課題の解決に向けたマイナンバーカードの活用方法について、参加者が議論しました。

引き続き、地域課題の解決に向けてマイナンバーカードの活用を検討してまいります。



#### デジタルデバイド対策の実証事業を開始

デジタル社会への移行にあわせて、特に高齢者の情報格差（デジタルデバイド）解消を図るため、県内5市においてデジタルデバイド対策の実証事業を開始しました。

スマートフォンの無償貸出やスマホ教室・相談会等の実施を通して、県民のスマートフォン保有率の向上や地域で教え合う場の創出を図ります。

誰一人取り残されないうデジタル化を推進していきます。



#### 県内各地で自動運転の実証を開始

越前市では、自動運転バスの今年度の実証を開始し、昨年度よりルート延伸して3.4kmの距離を走行しています。

また、坂井市においては、予約制乗り合いタクシーの需要増加を受け、自動運転タクシー「イータクプラス」の実証を開始しました。

両市の自動運転は、運転手が同乗する「レベル2」で走行しており、運転手の負担軽減や将来的な運転手不足の解消につながります。

##### 【越前市自動運転バス】



##### 【坂井市イータクプラス】

